

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	62	大学等名	高知大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組ではディプロマ・ポリシーを「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲・態度」「技能・表現」の4領域と定義した上で、学生が修得すべき10の具体的能力等を定め、「地域協働」による教育を全学規模で推進している。「地域協働」による教育成果では、190件に及ぶ新聞報道（平成28年度実績）が示すとおり、学生の諸活動が顕著である。また、学生の学修成果を客観的に評価するため、各授業科目の成績分布の公表や学生が自己の成長を捉えることが可能となる仕組みの導入並びに学生対応マニュアルの作成や全学的な説明会を実施するなど、教育改善が進められているほか、大学運営に外部評価を反映する仕組みについても全学的に取り組み、教育改善につなげていることから、質保証を伴った大学教育を実現する視点からも総合的な取組が着実に行われていることは評価できる。
- ・必須指標の事業目標に対する達成度はいずれも高く、特に学生の授業外学修時間、卒業生追跡調査の回答率は、目標値を大幅に上回っている。また、高知大学で定めた16の任意の指標についても、事業目標に対する達成度は高く、GPAの成績を基にした個別面談の実施学部数、リテラシーとコンピテンシーを測定する外部テストの実施率はいずれも目標値を大きく上回っている。さらに、学生対応マニュアルの作成や、学生面談にかかるFDを実施し、教員の面談技術向上に努めるなど、成果を上げるための積極的な取組が認められ、評価できる。
- ・学内の実施体制は組織的に整備されている。また、学内組織による自己点検・評価体制と外部評価委員会による外部評価体制の2つが整備されている。さらに、教学IRデータの集約、一元管理から分析・検証を行う外部研究機関との共同研究など、エビデンスに基づいたPDCAサイクルが機能していることは評価できる。
- ・本取組については、事業に関わるHPの設置、シンポジウムの開催（予定）、研究論集の発行（予定）など、学生・教育支援機構を中心とした積極的な取組成果の発信が計画・実施されている。また、教育改革に向けた意識改革に関わる計画は多岐にわたり、改革に向けた強い意欲を感じ取ることができ、今後の見通しも期待できる。さらに、体制的・資金的な継続性についても問題がなく、補助期間終了後も継続的かつ発展的に事業が実施されることが十分見込めるものとなっていることは評価できる。